



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第4号 (1998年8月27日 発行)

第1回日本チェロ協会総会の報告

事務局長 児玉 真

さる6月16日に日本チェロ協会の第1回総会が行われました。

今回の総会は、前回11月の総会後に急遽決めたため、日程も平日夜となり、設立総会のような交流の場をつくる事も出来ませんでした。それ故か、出席者があまり多くなかったのが残念でしたが、前回会長一任で決定した役員の人事、活動についての方針が討議決定されました。

1. 役員人事

役員の立候補、推薦を募集しましたが、締め切り日の5月20日までに特に申し出が無かったため、前日(15日)の評議委員会で討議した結果、現役員決定からまだ数ヶ月しか立っておらず、チェロ協会の基礎を作るにはもうしばらく働いてほしいという会長の提案を採択、総会に提出し承認を得ました。次の総会(20

00年春に予定)までの役員は以下

会長 堤剛

副会長 堀了介、中島顕

評議委員 上村昇、苅田雅治

倉田澄子、河野文昭

斎藤建寛、毛利伯郎

山崎伸子

児玉真(事務局長)

監事 三木隆二郎、藤田正厚

3. アマチュアクリニック開催や講師派遣斡旋の準備調査

4. 会員から提出された提案(ウェルナー教則本のCD化、フォイヤマンの伝記の出版)について、実現の可能性を事務局で検討する(経済的な可否も含めて)

5. JCSニュースの年4回発行

6. ホームページの開設準備

2. 1997年度事業決算報告と1998年度の事業計画、予算案が提出され承認されました。

1998年度の主な事業としては以下のよう事を予定しています。

1. チェロサロンの定期的な実施(東京以外でも実現する方向)

2. マスタークラスの主催(共催?)

年2~3回程度。今年はミクローシュ・ペレーニ、ルイス・クラレットを予定。

また、1999年度の事業として

・シユタルケルのマスタークラスの主催

・サイトウキネンチェロアンサンブル公演の後援

などが話題となり可能性を探っています。

別途、議事の抄録と、97年度決算、98年度予算を掲載しますので、どうぞお読みください。

日本チェロ協会第1回総会妙録 1998年6月16日

●堤 剛 会長 挨拶

てクリニックなどを行った。

議題3に関して全会一致で承認。

●議題1: 97年度事業報告ー児玉

6月15日の評議委員会で事業報告を承認。2月7日に第1回評議委員会を開催。評議委員人事は設立総会の議決を受けて会長が決定。

マスタークラスについて。グリーンハウスマスタークラスの際に会員の懇親会を開催。(大阪:3月22日フェニックスホールリハーサル室「グリーンハウスさんを囲む会」、東京:29日マスタークラス終了後)特に関西の会の開催後に会員数が増えたのは効果があった。

チェロサロン第1回:5月24日お茶の水スクエアF会議室にて。堀了介さん主宰。20名くらいが参加し

●議題2: 97年度決算報告(別紙)

ー児玉真

議題1、2に関して全会一致で承認。

●議題3: 役員の選任について。

児玉真: 設立総会で「アマチュアからも評議委員を募ってはどうか」という意見が出たので、5月締め切りで会員から立候補、推薦を募った。候補者が出なかっただけで評議委員会で検討の結果、現評議委員の留任を提案したい。任期は次期総会(2000年5月または6月)まで。

●議題4: 98年度事業計画案について。

ー児玉真

1/チェロサロン

年に3~4回は実施したい。評議委員以外の会員の主宰も今後は考えられる。会場費、茶菓代などの補助も検討する。

チェロサロン主宰者は、山崎伸子さんが指名係となる。声がかかった人は協力してください。

2/マスタークラス

アマチュアの方からも「面白い」との声があるので、カザルスホール関連に限らず、年に3~4回開催するように努力したい。通訳料、講師謝礼、受講生選出の態勢を整えたい。

東京以外でも開催できるように出来ると良い。98年度はミクローシュ・ペレーニ(10月)、ルイス・クラレット(2月)、99年10月にはシュタルケルが来日するのでそれも考えている。(フルニエ財団の協力で)

3／クリニック

地方で行うアマチュアのためのクリニックについて、講師派遣などがある様に可能か検討する。

4／会員提案事項について

提案された件について事業化できるかどうか可能性を探る。出版社、レコード会社など。この件については事務局預かりとし、次回、次々回(秋頃)の評議委員会で報告、更に検討する。

5／JCS NEWSについて

記事が不足している。質問コーナーや伝言板などの充実を図りたい。原稿があれば事務局におくってほしい。

6／ホームページ開設

事務局が多忙のため、またホームページにするほどの情報がないため現在間借り中という状況。なるべく早い時期に開設できればと思っている。

事業計画について質問など

毛利伯郎：アルド・パリゾからマスタークラスのために日本に行きたいという提案があった。(堤：ニュージャージーのローレンス・レッサーもそう言っていた。検討したい)

鈴木文弘：アマチュアの場合、アンサンブルを楽しんでいる人が多いと思う。アンサンブル指導をしてく

れる場所がほしい。

児玉真：チエロサロンをアマチュアの人がチエロを持って集まれる場所にしたい。そこからそのようなことをはじめてゆければ良いと思う。もうすこしきちんとやっていければ良いのですが。

堀了介：前回チエロサロンでそのようなことをやってみた。演奏家がどこかへ仕事で行った帰りに地方の町でもそのようなことができればよいと思う。いろいろ難しいところはあるが、実現可能だと思う。

●議題5：98年度予算案(別紙)

—児玉真

議題4、5に関して全会一致で

1997年度決算書

【収入の部】

(単位：円)

項目	1997年度 予算額	1997年7月1日～11 月23日(日本チエ ロ協会設立準備委 員会)決算額	1997年2月24日～ 1998年3月31日 (日本チエロ協会) 決算額	1997年度 合計決算額	摘要
会費	2,550,000	989,000	1,127,000	2,116,000	
雑収入	—	5	313	318	銀行利息
計	2,550,000	989,000	1,127,313	2,116,318	

【支出の部】

(単位：円)

項目	1997年度 予算額	1997年7月1日～11 月23日(日本チエ ロ協会設立準備委 員会)決算額	1997年2月24日～ 1998年3月31日 (日本チエロ協会) 決算額	1997年度 合計決算額	摘要
会報作成費	250,000	0	236,250	236,250	
通信費	280,000	106,890	75,200	182,090	
便箋、封筒などの 制作費	1,000,000	1,439	248,850	250,289	
総会委員会諸経費	100,000	24,721	63,810	88,531	
事務諸経費	50,000	5,707	43,938	49,645	
名簿作成費	50,000	0	0	0	
会員証製作費	100,000	0	0	0	
事業費(マスターク ラスなどの開催費)	100,000	0	0	0	
ホームページ 開設運営費	100,000	0	0	0	
1998年度への 繰り越し	520,000	—	—	—	
計	2,550,000	138,757	668,048	806,805	

収入合計2,116,138円から、支出合計806,805円を差し引いた差額1,309,513円は、1998年度に繰り越します。

承認。

●議題6：報告事項

後援企画「1000人のチエロアンサンブル」について

松本巧：タイトル、主催者などに何度か変更があったことをお詫びします。「1000人のチエロ実行委員会」主催となった。本日現在約600名が申し込み。また、ポートピアホテル、ルフトハンザなどの協力も得られ、海外からも多数の参加がある見込み。ドイツでのイベントに参加した人を中心に、ほかアメリカなどから。全部で800名くらいの参加者がある見込み。今後は東南アジア方面にもさらに呼びかけ、全世界的なイベントにしたい。

演奏レベルを引き上げるために、特にプロの方に参加してほしい。プロの方には交通費、宿泊費、指導料を支払う。また、県単位での分奏も予定しているので、こちらの指導もお願いしたい。

松崎松平：会則について。総会成立要件についての文言がぬけている。今後のために整備した方がよい。

児玉真：評議委員会で検討する。また、総会だけでなく、ミニコンサートやアンサンブルなどもふくめて、どこかでペンションやホールなどの協力で1泊2泊などで大会風に行うことも考えられる。次の総会は斎藤さんを中心に考えて行きたい。

松崎松平：将来的にはどのくらいの規模を目指しているのか。アマチュ

アとっても幅が広いし、会についての責任感などには温度差が出てくる。プロの方が中心になって引っ張っていってほしい。

堤剛：300人くらいの会員規模を目指している。私見としては、総会には会員の過半数の出席がほしい。

この件は評議委員会で検討。ニュースレターで報告する。

小倉千秋：チエロ協会の知名度が低い。知名度を上げる方法を考えてほしい。

児玉真：1年に1回、未入会の人もふくめて通信することも考えるほか、海外のチエロ協会にも積極的にアピールしていきたい。

1998年度予算書（案）

【収入の部】

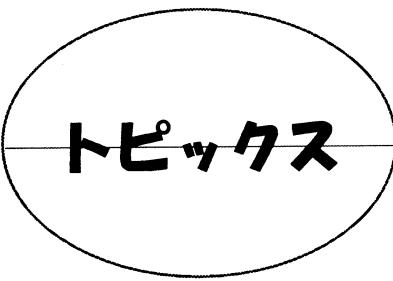
(単位：円)

項目	1997年度 予算額	1998年度 予算額	摘要
会費	2,550,000	2,000,000	正会員／学生会員 1,500,000 賛助会員 500,000
雑収入	—	1,000	銀行利息
前年度繰越金	—	1,309,513	
計	2,550,000	3,310,513	

【支出の部】

(単位：円)

項目	1997年度 予算額	1998年度 予算額	摘要
会報作成費	250,000	500,000	@125,000×4回
通信費	280,000	180,000	会報発送など
便箋、封筒などの製作費	1,000,000	200,000	
総会／評議委員会経費	100,000	400,000	委員旅費など
事務諸経費	50,000	200,000	
名簿作成費	50,000	100,000	
会員証製作費	100,000	50,000	
事業費	100,000	565,000	マスタークラス謝礼＆経費、チエロサロン経費、紹介資料費など
ホームページ開設運営費	100,000	100,000	
次年度への繰り越し	520,000	1,015,513	
計	2,550,000	3,310,513	



やぶちょう 養父町、全日本ビバホールチェロコンクール報告

養父町ビバホールチェロコンクールは、ジュニアをのぞけば日本で唯一のチェロのコンクールとして隔年に行われています。第3回目の今年は7月22日から26日まで行われました。

養父町は兵庫県の北部、但馬地方の山あいの町です。福知山から山陰線で小説で有名な城崎へ向かう途中にあります。

*

ところで、何人もの人から養父町がチェロという楽器を選んでコンクールをした理由は何でしょうか?と担当の西垣さんはよく質問されるようですが、どうも、養父とチェロを結びつける決定的な理由は無かったような感じです。しかし、そのことと、チェロコンクールをやっていこうとした価値とは別のことです。考えてみれば、カ



コンクールのおこなわれた養父町ビバホール



講評をおこなう上村昇氏

ザルスホールも別にカザルスと縁があったわけではないのですから。結局、その後に何を行うかが重要なでしょう。テーマを決めるこによって、自分らがすべきことが明確になっていく、というのはカザルスホールでもあったことですし、きっと養父町でも起こっていることだと思います。

*

2年前の第2回のコンクールは、審査員のチェリストたちもびっくりするような高いレベルのコンクールになり、そのことが、昨年、カザルスホール10周年で行われたチェロ連続リサイタルに、21世紀の音楽界を支えるチェリストたちとして、若手6名を起用するきっかけとなりました(もちろん、審査委員の先生方の推薦や後押しがあったからですが)。今年の第3回は、他のセミナーなどとのスケジュールの重複や準備の若干の遅れなどもあったようですが、24名が参加しました。私は本選に残った5名のチェリストのコンセルト演奏(ピアノ伴奏)を聴きましたが、それぞれが、自分の世界を持とうという意志にもとづいて演奏しているのを聴いて、満ちたりた気持ちで東京への寝台列車に乗ったのです。

本選は、傳田正則、宮城健、福野桂子、山本彩子、山内理映の5名によって行われ、山内理映さんが第1位を獲得しました(第2位福野桂子、第3位山本彩子、第4位傳田正則、第5位宮城健)。私は山内さんのピアニスト、新垣隆さんのサポートも大きかったよう気がします。

このコンクールが素晴らしいと思うのは、第1に審査員が全員現役ばかりのチェリストたちでしめられていること、第2にコンクールを支える町の方たちの意欲の高さです。そこには、ただ企画を手伝うというボランティア以上の盛り上がりがあるため、コンクールの審査会場の客席内の雰囲気が全然



表彰される第1位の山内理映さん

違うのです。そして、町長が授賞式で挨拶されたように、町の方たちがコンクールを「素晴らしい芸術を聴かせてくれてありがとう」という気持ちで迎えていることです。コンクールといえば、まだまだこれからの人たちの演奏と考えるのがふつうですが、そこに、芸術的香気を感じようという気分はどう様に生まれているのかとても興味深く思います。審査員の方たち(上村昇、北本秀樹、倉田澄子、花岡薰、堀了介、山崎伸子)も非常に熱心にメモをつけ、審査をしていらっしゃいました。そのメモは、終了後のパーティで活用され、それぞれがきちんとアドバイスを受けていたのも印象的でした。

前述したように、日本で唯一のチェロコンクールともいえる貴重な場所ですから、今後も続けていって欲しいと思います。イベントですから、毎回、山あり谷ありだとは思いますが、「最後は愛情によって動く」ことで解決されていくでしょう。

*

ちなみに、山内理映さんの優勝記念コンサートは来年秋(たぶん11月)にカザルスホールで行うべく養父町の方で準備中です。カザルスホールも応援することになると思います。会報でもまたお知らせいたします。

児玉 真

札幌ジュニアチェロコンクール報告

前号でお知らせした第9回札幌ジュニアチェロコンクール(1998年8月2日、札幌パームホール)を終え、今年はその内容が例年にもまして、大変充実したものであったため、そのことをご報告したいと思います。

今年で第9回を迎えた当コンクール。1990年にヴァイオリニストの浦川宜也氏の提唱で、チェリストを目指す若い世代を対象にして、その底辺の拡大を願い、彼等の日頃の勉強の励みになるコンクールとなるよう、始められました。

第1回からずっとコンクールの審査員として参加してきた私にとっても、正直なところ当初はかなりの不安を感

じながらのスタートであったことは事実です。果たして重くて大きな楽器を抱えて飛行機に乗り、わざわざ札幌まで受けに来てくれる人たちがどれくらい入るのだろうか?と・・・しかし、そんな心配をよそに、第1回から演奏レベルの高い人たちが集まってくれたのです。それ以後、年を重ねるごとに参加者数も増え続け、今年はとうとう25名の参加を数えるに至りました。このことは国内では、もう一つのチェロの為だけのコンクールとして行われている兵庫県養父町の、全日本ビバホールチェロコンクールや、日本音楽コンクールのチェロ部門の規模に近づくもののです。

審査員としては浦川氏と私以外は、国内外を問わず毎年数名ずつ。重複しないようにできるだけ多くのチェリスト、指導者の方に声をおかけし、このコンクールの趣旨に賛同してくださった方にお願いしてきました。そして、それらの方々が審査員としてお名前を連ねてくださったことや、それぞれのお弟子さんたちに推薦してくださったことも、このコンクールの盛り上がりの大きな原動力になっています。

当コンクールでは、参加者の使う楽器のサイズにより部門を分ける、というユニークな方法をとっています。

第1部門 分数サイズの楽器を使う者

第2部門 フルサイズの楽器を使う者（課題曲の難易度、低）

第3部門 フルサイズの楽器を使う者（課題曲の難易度、高）

〈今年の結果〉

第1部門

優秀賞 山田幹子（小5、広島県）

神倉辰侑（小4、大阪府）

奨励賞 伊藤悠貴（小3、東京都）

宮田大（小6、栃木県）

第2部門

奨励賞 三宅依子（中3、京都府）

鎌田泉（中3、広島県）

第3部門

優秀賞 奥泉貴圭（中3、北海道）

高橋麻理子（高2、東京都）

堀沙也香（中3、神奈川県）

寺井創（高3、東京都）

奨励賞 門脇大樹（高1、鳥取県）

玉川克（高2、栃木県）

今年の結果から、特に第1、3部門に大きな成果がありました。7名の参加者（内1名棄権）が全員小学生だった第1部門では受賞者に限らず、参加者全員に高い技術と豊かで個性的な音楽が見受けられたのが大きな驚きでした。第3部門でも全体的な水準は高く、皆とても素晴らしい演奏をしてくれました。特に上位の者たちは甲乙つけがたく、結果的には「優秀賞」を例年多くても2名のところを4名に出さねばならなくなってしまいました。嬉しい悲鳴といったところです（参加者は11名）。これらの入賞者は皆、将来、次のコンクールでも大いに活躍することを充分に予感させる人材だと思います。

今回の審査を終えて、このコンクールが対象としている年齢層が他のコンクールよりも低い（19才未満）ということを考えに入れると、この数年の結果からますます若い世代の演奏レベルが充実してきてることを実感させられます。

欧米のチェロ界のレベルにはまだまだ及ばぬところは事実ですが、このコンクールを今後も継続していくことが現実には必要なことだという確信も今回得たように思います。

しかしながら、経済的には厳しい状況が続いており、大きなスポンサーもなく参加者の参加料を頼りに何とか持ちこたえている現状です。今後、さらに参加者が増えて1日だけで行っている審査の日程が2日間になるだけでもうパンクするのは目に見えています。運営を行ってくださる北海道弦楽教育研究会のみなさん（皆ヴァイオリンの指導者の方々です）のボランティアや、ヴァイオリニストの浦川氏の情熱に頼り切っている現状も私自身チェリストとして恥ずかしい限りです。JCSとして何か、あるいは個人的に援助を申し出でくださる方がいらっしゃれば、きっとこのコンクールの継続に大きな力となることは間違ひありません。この会報の場をお借りしてお願いしたいと思います。

来年10周年を迎えるわけですが、それに向けて新たな準備に入ったところです。このコンクールの卒業生でその後も大活躍を続けている工藤すみれさん、上森祥平君、渡辺方子さん、峰本

更さんらに続く人材が来年も誕生してくれる事を願ってやみません。

チェリスト、東京芸術大学助教授

河野 文昭（R-083）

第1回チェロサロンに参加しました。

なんとなく緊張した雰囲気のうちに始まったようですが、皆さんなぜJCSに入会したか（もしくはなぜ見学しているのか）、一言ずつ発言する機会がありました。皆さん「チェロ」に対する思い入れがさまざまだったことを知り、感銘を受けました。

今私は学生の頃と違い、チェロを特別なもの・神聖なものとする気持ちはありません。それはエゴイズムや自己満足につながるということを経験上発見したからです。いろんな人が入会でき、そうしたことがよかったと思えるような雰囲気を作っていくことはとても大切だと思います。そうであれば私ももっと会員を増やすことに協力できそうです。小さな意見も掏い上げて、また演奏をする人もそうでない人も楽しく会合に集まれるような空気になつたらいいなあと思いました。

*

ところで楽器を持たずに参加した私は、深く考えずにチェロクリニックを受けて、畏れ多くも堀先生の楽器を触らせていただきました。それなのに、数年ぶりに出した音のあまりのひどさに私は愕然とし、穴があつたら入りたいという気持ちになりました。周りで聴いていた皆さんの中にはみんな下手な人があんな名器に触るなんて...と思われた方もいたことでしょう。でも、もしかするとあんな人もいるんだ、と安心した方もいたかもしれません。

とにもかくにも当日を含めて、2~3日はかなり落ち込みました。以前の私であれば、落ち込んでいる暇があれば練習すべし、という思考方法だったのですが、今の私にはそれができません。右半身の頸肩腕症候群と腰痛に悩まされ、ハードケースはチェロの貯蔵容器と化しています。それでも以前はソフトケースで持ち運んでいましたが今はそれもできません。家で弾くにも

反動で何日も痛みが出ることを考えると恐くて触れません。治療によってかなり症状は改善していますが、まだいつ演奏を再開できるかわかりません。

いっそのこと、楽器を売ってしまえばすっきりするのかもしれません、夫より付き合いの長い相手なのでなかなか綺麗に別れられそうにもありません。

直接には資格試験の勉強で悪化したのですが、今思うと長い間の私のチェロとの接し方に遠因がありそうです。もともと筋力がどちらかといえば弱くない方なのに、大学時代は史学科器楽専攻を自称しては楽器ばかり弾いてい

ました。何年か前に一度ダンベルで鍛えようとしたが、右腕だけ痛みが出てしまいました。まずはよく治さなければなりません。

私のようなひどいことにならないように、一度プロの方達がどのように日常で気を付けていらっしゃるのかといふことも伺えたらいいかもしれません。実際に演奏を止めざるを得なくなる事例もあるようですし…。

*

以上、私の勝手な感想です。せっかく入会しているのですから、チェロを通じて世界に貢献し、自分も楽しめる、

そんな協会になっていくように私も微力ながら努力したいです。

*

最後に、ご多忙の中を主催してくださいた堀先生や事務局の皆さんには深く感謝申し上げます。倉田先生のご回復を心からお祈りいたします。これからチェロサロンを誰が主体となってどのように企画運営していったらよいかということも気になるところです。第2回以降もできる限り参加していきたいです。

鈴木 協子 (R-039)

◆寄稿◆

今、チェロの音色に感じる事は?

6

「地球の声が、きこえますか。」のコピーで有名な映画、地球交響曲（監督・龍村仁）の音楽、そしてY先生のチェロへの思いです。龍村氏の分に「生命はそれ自体の中に人智をはるかに越えた叡知=自己治癒力を秘めており、危機に瀕したとき、調和が乱れたとき、それを正しい道に修正し、生き続けるための新たな方法を自発的に生み出す力を持っています。そして、その自己治癒力が発現するか否かの鍵がいつも“心”の在り方にかかっているのです。」とあります。第三番は写真家・星野道夫氏の死を通して永遠の生命とは?を問う素晴らしい映画なのですが、そのスチールに合わせて彼が選んだ音楽は偶然にも、ほとんど人の歌声であったそうです。たとえば、S・オズボーンの「アベマリア」「仰げば尊し」。A・マレーの「セイイング・グッドバイ」そして、フォーレの「レクイエム（ボイソプラノ）」等。澄んだ映像と彼の生命の

物語を語る音楽とが見事で、心打たれました。そして、私の中で深い悲しみと静かな喜びとが響き合うのを実感したそれが、まさにチェロの音色と重なりました。突然のY先生とのお別れから約一年。不器用な子供の手をとり何度も何度も弓の持ち方を変えては、音の出し方、重さの乗せ方、角度や方向等々、ご自分の体調もかえりみずにご指導いただきました。日々を思い起こす度に先生のお声とチェロの音色が現実のものの様に聞こえてきます。ひとつの音を生み出すチェロへの思いが伝わりました。音楽は不思議な力を持っていて悩みや悲しみから人を立ち直らせ、喜びを何倍にもする底知れぬ力が秘められていると思います。今、私達は地球という大きな生命の一部であることに気づき、瀕死の状態にあるといわれる地球の声に耳を傾けて、その“心”にチェロの音を響かせてほしいと願っている日々であります。 K, K & R-051

● 会員主催・関係の演奏会・CDの情報

【コンサート情報】

1998日経ミューズ特別サロン 魅惑のDUOシリーズ 第1夜

酒井淳（Vc）+東誠三（Pf）
日 時●9月10日（木）19時
曲 目●O・シェック：チェロとピアノのソナタ／P・ヒンデミット：無伴奏チェロソナタ 作品25-3／A・ベルク：ピアノソナタ 作品1／M・レーガー：チェロとピアノのソナタ 第3番 作品78
入場料●4500円
問合せ●03-5721-4621（日本交響楽協会）

サロンで室内楽を聴く会「第243回コンサート」

日 時●9月20日（日）15時
会 場●横浜市イギリス館
入場料●2500円
出 演●村瀬忠義（チェロ・R-102） 藤井松良（ピアノ）
曲 目●フランク：チェロソナタ イ長調／シューベルト：チェロソナタ イ短調「アルペジオーネ」／ベートーヴェン：チェロソナタ 第3番 イ長調 作品69
問合せ●045（501）4254（横浜室内アンサンブル事務局）

小さなコンサート第10回

日 時●10月8日（木）18時半
会 場●横浜市大倉山記念館
出 演●村瀬忠義（チェロ） 杉谷昭子（Pf）
曲 目●ショパン：ノクターン／カサド：親愛なる言葉／ベートーヴェン：チェロソナタ 第3番 イ長調 作品69／ブレヴァール：チェロソナタ ト長調
問合せ●045（501）4254（廣岡代子）

堤剛プロデュース1998

—フランス・ロシアの今世紀チェロソナター—
会 場●サントリーホール
日 時●10月22日（木）19時
出 演●堤剛（Vc） 上田晴子（Pf）
曲 目●ダンディ：ソナタ 二長調 作品84／ドビュッシー：ソナタ／ミヨー：ソナタ 作品37／ブランク：ソナタ
日 時●10月23日（金）19時
出 演●堤剛（Vc） 上田晴子（Pf）
曲 目●プロコフィエフ：ソナタ ハ長調 作品119／シュニトケ：ソナタ／ラフマニノフ：ソナタ ト短調 作品19
入場料●4000円（セット券7000円） 学生席1000円
問合せ●03-3584-9999（サントリーホールチケットセンター）

カザルスに捧げるチェロ連続リサイタル1998

会 場●カザルスホール

第1日・10月22日（木）19時

出 演●スティーヴン・イッサーリス／相曾賢一朗（Vn）
曲 目●J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007／ブリテン：無伴奏チェロ組曲 第3番 作品87／J.タヴァナー：トリノス（悲歌）／ラヴェル：ヴァイオリンとチェロのためのソナタ／カール・ヴァイン／インナー・ワールド

第2日・10月23日（金）19時

出 演● 山本祐ノ介／小山京子
曲 目●J.S.バッハ／無伴奏チェロ組曲 第2番 二短調 BWV1008／ベートーヴェン：チェロソナタ 第2番 ト短調 作品5の2／山本純ノ介：カリグラフィ／フランク：チェロソナタ イ長調

第3日・10月24日（土）19時

出 演●金木博幸／清水和音
曲 目●J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調 BW

V1009／ベートーヴェン：チェロソナタ 第4番 ハ長調 作品102の1／レスピーギ：アダージョと変奏（アダージョ・コン・ヴァリアツィオーニ）／ショスタコヴィチ：チェロソナタ 二短調 作品40

第4日・10月25日（日）14時

出 演●山崎伸子／長岡純子
曲 目●J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第4番 変ホ長調 BWV1010／ベートーヴェン：チェロソナタ 第5番 ニ長調 作品102の2／ブームス：チェロソナタ 第2番 ヘ長調 作品99

第5日・10月26日（月）19時

出 演●ミクローシュ・ペレーニ／デネシュ・ヴァーリヨン
曲 目●J.S.バッハ（ゾルタン・コダーイ編曲）：3つのコラール前奏曲（25のコラール前奏曲より）／J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第5番 ハ短調 BWV1011／アンドラーシュ・ミハイ：断章（1963年ブダペストで行われた第1回パブロ・カザルス記念チェロコンクールのための作品）／エルンスト・フォン・ドホーニ：チェロソナタ 変ロ長調 作品8／ベラ・バルトーク：狂詩曲第1番

第6日・10月27日（火）19時

出 演●林峰男／寺田悦子
曲 目●ボッケリーニ：ソナタ イ長調（2楽章版）／J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第6番 ニ長調 BWV1012／ドビュッシー：チェロソナタ／ブランク：チェロソナタ

入場料●パレコニー席 4000円 G3000円 S2000円

円 学生（当日のみ）1000円
問合せ●03-3291-2525（カザルスホールチケットセンター）

アルトゥール・ボヌッチ&岩崎淑 デュオコンサート

曲 目●ブームス：チェロソナタ 第1番 ホ短調 作品38／ショパン：序奏と華麗なるポロネーズ 他

日 時●10月23日（金）19時

会 場●月見草（鳥取県浜村）
イマジカコンサート第9回（入場無料）
問合せ●0857（24）8352（中山）06（725）9162（吉田）

日 時●10月24日（土）16時

会 場●ホテルニューオータニ鳥取
ビーバークラブコンサート（会費5000円=食事つき）
問合せ●0857（24）7272（福嶋）

今秋10月、イタリアからイタリア国立サンタ・チェチリアアカデミー教授のアルトゥーロ・ボヌッチ先生を鳥取にお招きしてサロンコンサートを2日間することになりました。（R-154 松浦ふさ代）

【CD情報】

「2つのチェロのための音楽」

金丸晃子+クリストフ・モール チェロ2重奏
曲 目●ボアモルティイ：ソナタ、ハイドン：デュエット、オッフェンバック：デュオ、ペツツォッティ：3つのインベンション、山本成宏：インドの虎狩り、その他16世紀から現代に至る作曲家により2重奏の作品を録音しております。スイスで録音。日本では未発売。

○日本のレコード屋さんでは手に入らないチェロ2重奏のCDです。一枚2500円（送料別）。

お問い合わせ、申込は 小坂由紀恵（電話03（3308）7391 FAX03（3308）7419）へご連絡ください。

※金丸晃子さん（R-138）から「もしも協会の会員の方が興味を持ってくださったら、と思います。私が日本に在住していないので、東京の友人が連絡先になっています。ご連絡くださいればすべてわかるようにしてありますのでよろしくお願いします」という手紙を頂きました。

事務局から

第2回JCS チエロサロンのお知らせ

定例行事として定着を目指しているチエロサロンですが、第2回は関西で行います。幹事は斎藤建寛さんにお願いをいたしました。今後も最低年4回は行って行くつもりです。たぶん、東京3回、関西1回のペースになると思います。チエロサロンの人選などの役を山崎伸子さんにお願いしました（今度は誰々にやってもらう、と決める人です。皆様のご協力をお願いします）。また、東京関西以外でチエロサロンを行いたいと思われる方は、事務局へお申し出ください。

第2回JCSチエロサロン

日時：1998年9月27日（日）

16:00から

場所：大阪、同和火災フェニックスホール リハーサル室

内容：今、斎藤先生が考えています
幹事：斎藤建寛

会費：無料（簡単な飲み物とお菓子
が出ます）

お問い合わせは

JCS事務局

Tel 03 (3294) 7586

Fax 03 (3293) 5257

へどうぞ。

※準備の心づもりもありますので、

参加される方は出来れば事前にJCS事務局へご一報いただけたと
ありがとうございます。まだ会員でない
方も、興味があればご参加いただ
いて結構ですので、周りのチエロ
仲間に声をおかけください。

のメール仲間同士のやりとりも楽しい
と思いますが、もっと広く会員全体に
知らせましょう。あらゆる情報をお待ち
しております。ファックス、メール、
手紙、どの方法でも可です。あまり気
取らずにどうぞ。

ボランティアのお願い

毎回のお願いですが、ボランティアで作業をしてくださる方を募集し
ます。次回の作業は

11月8日～13日位の間で

JCSニュースの原稿のまとめ、ワープロ打ち

11月28日

JCSニュースの発送作業

もう一つ、9月のチエロサロン（大阪）の手伝いをしてくださる方
はいらっしゃいますでしょうか。会場の準備片づけ（フェニックスホール
の大矢さんの手伝い）、お茶やお菓子の手配準備などをやってくださる
かたが必要です。

会員からの寄稿のお願い

原稿、エッセイ、研究発表、近況
報告、コンサートの感想などの寄稿
をお願いします。

会報はチエリスト同士の情報交換
の場でもあります。インターネット

カザルスホールから お願い

カザルスホールから日本チエロ協会
の会員の皆様に、アンケートへの協力
依頼がありました。ご協力をお願いでき
ますでしょうか。抽選で10名の方にカザルスホールで制作したグッズが
プレゼントされるそうです。

日本チエロ協会の皆様

カザルスホールでは、今年秋に行
われる「パブロ・カザルスに捧げる
チエロ連続リサイタル」に向け、会
報誌「フレンズ」でチエロの特集を
いたします。その中で、日本チエロ
協会の会員の方々に、「チエロ名曲
アンケート」のアンケートを実施し
たいと思います。この号の発送封筒
に同封いたしますので、ご協力のほど
お願いいたします。

カザルスホール会報「フレンズ」
編集長 米田正行

<会報スケジュール>

	原稿・情報〆切	発送作業	掲載情報
98年12月号	98年10月30日(金)	11月28日(土)	98年12月5日(土)以降
99年3月号	99年1月29日(金)	2月27日(土)	99年3月6日(土)以降
99年6月号	99年4月30日(金)	5月29日(土)	99年6月5日(土)以降
99年9月号	99年7月30日(金)	8月28日(土)	99年9月4日(土)以降

編集後記

会の事務局はかなり大変だと思っていたのですが、実はもっと
大変でした。でも、事務局にチエリストの方が顔をしてくれた
て、何となくワイワイしているときは本当に楽しいです。アウフ
タクトが何となくたまり場になるまでがんばることにしましょう。
一方、アウフタクトはカザルスホールの主催公演のバリバリの制
作現場です。11月の初めまでは、全く暇なしに忙しいのです。チエ
ロ連続リサイタルの時に顔を出すと、突然手伝いをお願いしたり
するかも……。

日本チエロ協会会報 JCS NEWS 第4号

【発行日】1998年8月27日

【発行所】〒101-0062 東京都千代田区神田駿河
台1-6 お茶の水スクエアA館 カザル
スホール企画室・アウフタクト内
日本チエロ協会

電話 03-3295-7586 FAX 03-3293-5257
E-mail:QGA01776@niftyserve.or.jp

【発行人】堤 剛（日本チエロ協会会長）

【編集】日本チエロ協会事務局

【編集協力】リュウカンバー

